



# British Politics Today

2014年5月1日  
第3巻 第5号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk  
tomo@kikugawa.co.uk

## この号の内容

- 1 はじめに
- 2 経済成長と政治効果
- 3 欧州議会選での UKIP の勢い
- 4 新聞の自主規制自主規制機関を容認する新文化相
- 5 議員の倫理違反
- 6 イングランド国教会と国

## IMF 2014 年 経済成長予測

国名	予想成長率
英国	2.9%
米国	2.8
カナダ	2.3
ドイツ	1.7
日本	1.4
フランス	1.0
イタリア	0.6

## 1. はじめに

英国では明るい経済ニュースが続いている。生活費危機をやっとのりこえられるのではないかと思われ始めているが、政治的にはキャメロン首相に困難な状態が続く。首相の率いる保守党の、ミラー文化相の議員経費問題、エヴァンス前副議長のセクシャルハラスメント問題、マーシー下院議員のロビーイング違反問題とその辞職による補欠選挙、そして惨敗すると予測される欧州議会議員選挙である。

## 2. 経済成長と政治的効果

米国の製薬会社ファイザーが英国のアストラゼネカを買収し、企業の拠点を英国に置く計画が明らかになった。この計画を英国政府は巨額の対内投資とみて乗り気であり、モルガン・スタンレーのバンカーだった、トップ公務員の内閣書記官長ジェレミー・ヘイウッドらが交渉に当たっているという。これが実現すると、外国企業による英国企業の最大の買収となる。政府は、英国にとって重要な薬品関係の人材や研究所などのベースが将来失われることのないよう保証を求めているようだ。

この背後にはキャメロン政権の積極的な投資促進策がある。今や英国は [BBC の経済部長ロバート・ペストン](#)によると「世界最大の、最先進のタックスヘイブン」とも呼ばれているようだ。法人税は来年 4 月から 20%となる。英国に本拠を置く多国籍企業は海外での企業活動からの配当に英国の税がかからない。英国は企業買収のしやすい国であるが、首相以下政治家が国のセールスマンになって努力している。

2010 年に政権について以来、キャメロン政権はこれまで困難な経済環境を乗り越え、大幅な財政削減を実施しながら 2014 年には G7 の中でトップの経済成長を達成する見込みとなった。英国経済はバランスよく成長しているわけではなく、GDP の 4 分の 3 を占めるサービス産業がこの経済成長のほとんどを占め、約 1 割の製造業は国内、ユーロ圏からの需要が次第に増加し、それにわずかに貢献している。政府は輸出促進策を講ずるとともに海外に出た企業を引き戻す部門を作るなど英国内での産業振興に懸命だ。もちろん経済が成長すると英国の通貨ポンドが強くなり、輸出に悪影響をもたらす懸念がある。それでも失業率が下がり、賃金の上昇がインフレ率を上回り、将来へ明るい兆しが見えている。

キャメロン政権が発足して 4 年目を終わろうとしているが、経済・財政政策の効果の多くは、比較的最近になって表れてきた。ただし、これらを有権者がどのように判断するかは別の問題である。

キャメロン首相・オズボーン財相は経済・財政運営能力が高いと多くの有権者が評価しているが、それがゆえに次期総選挙後も保守党政権が継続してほしいということにつながっていない。むしろ保守党の「嫌な政党」イメージを復活させるような問題が続いている。このままでは、有権者は景気の向上を当然と受け止め、保守党に期待しない可能性がある。一方、もしユーロ危機や景気の低迷があれば、保守党がその責任を問われるかもしれない。その上、住宅ブームが過熱しすぎると政策金利がアップする可能性もあり、これからの 1 年間慎重な政治的判断が要求されるだろう。

### 3. 欧州議会選での UKIP の勢い

世論調査会社	実施日	UKIP	労働党	保守党	自民党
YouGov1	4月27-30日	28	29	22	9
TNS-BMRB	4月24-28日	36	27	18	10
ComRes	4月25-27日	38	27	18	8
YouGov2	4月24-25日	31	28	19	9

注：TNS-BMRB と ComRes は 5 月 22 日に間違いなく投票するという有権者の支持動向。YouGov で間違いなく投票するという人たちの支持動向は上の表の政党の順番で以下の通り。  
YouGov1：32,28,20,8 YouGov2：36,28,16,7

欧州議会議員選挙の英国選挙区は 5 月 22 日(木)投票、25 日(日)開票である。EU 加盟国 28 か国の欧州議会全体では、反 EU の右派がかなり大きく議席を伸ばすと見られているが、英国では、英国を EU から脱退させることを目的に 1993 年に設立された英国独立党(UKIP)が上記のようにこの選挙の世論調査で大きな支持を集めている。

政党	議席
保守党	25
UKIP	13
労働党	13
自民党	11
その他	8

2009 年欧州議会  
選獲得議席数

タイムズ紙をはじめとする新聞が UKIP 叩きのキャンペーンを行ったが、確実に投票するという有権者の支持で、UKIP は労働党にもかなり大きな差をつけており、この選挙で大躍進するのは間違いない情勢だ。前回の投票率は 34%であり、3 分の 2 の有権者が投票しない中、確実に投票するという人たちをこれほど惹きつけているのは注目に値する。UKIP のファラージュ党首は「地震を引き起こす」と主張する。

欧州議会議員選挙では政権政党が批判を浴び、議席を大きく失うことがあるが、保守党はこのままでは惨敗する見込みだ。UKIP は主要政党のいずれからも支持を奪っているが、上表の ComRes によると、2010 年総選挙で保守党に投票した人の 43%が UKIP を支持しており、保守党が最も大きな影響を受けている。

前回の 2009 年の欧州議会議員選挙でも UKIP は直前 1 か月ほど前から大きく支持を伸ばしたが、ここまで伸びると予想した人はそう多くない。これは単に UKIP の反 EU の主張に賛成した結果ではなく、移民の問題や既成政党に対する一般有権者の不満や反発を吸収しているためである。これまで二大政党らに対する批判票の受け皿となっていた自民党が政権に入ったことも一因だ。自民党も惨敗する見込みだ。

UKIP は前回の欧州議会議員選挙で第 2 位の 13 議席を獲得したが、全 650 議席の下院議席選挙ではまだ当選者を出していない。欧州議会議員選挙では地区別の比例代表制を取っているのに対し、下院議員選挙は一つの選挙区から最高の得票をした一人だけが当選する小選挙区制を取っているためである。また、総選挙では政権を取れる可能性のある政党に票が集中する傾向があり、2010 年総選挙で UKIP は 3%の得票しかなかった。

ところが最近の世論調査によるとそれが変わってきている。2013 年春に、前エネルギー大臣クリス・ヒューンがその 10 年前にスピード違反の違反点数を妻に替わって受けてもらっていたことがわかり辞職したのを受けて行われた補欠選挙で、UKIP は、ヒューンの所属していた自民党の候補者に肉薄して次点となった。この選挙区の [最近の世論調査](#)によると、今や UKIP が最も多くの支持を集めている。

最近の保守党議員らの倫理違反問題は有権者の心理に影響を与えていると思われるが、それよりもっと根本的な、既成政党離れの問題があるようだ。これにいかに対処していくかが主要政党にとってはカギとなるように思われる。

お金の無駄遣い：地方自治体が駐車場を設けようと公園の芝生を撤去したが、計画変更で再び芝生を育てるため囲いを設置。

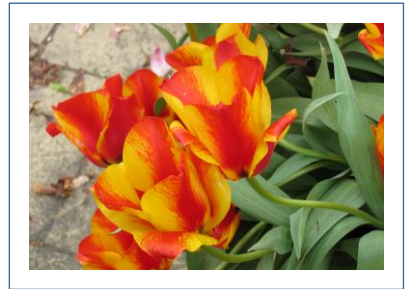


## 4. 新聞の自主規制機関を容認する新文化相

ジャビッド新文化大臣（保守党）は、新聞業界と対立しているプレスの自主規制機関の形をめぐり、政府はもうなすべきことはしたとして、これ以上タッチしない意思を表明した。

新聞による電話盗聴問題で政府の設けたレヴィソン委員会は、それまでの自主規制機関では不十分だとし、法的基盤のある自主規制機関を設立すべきと勧告。保守党、自民党、労働党の3党が勅許で設立する自主規制機関を設置することとした。これに関する法的な整備はすでになされているが、今のところ参加する新聞はない。この自主規制機関は参加メンバーの会費で運営されるため参加者がいなければスタートできない。ただし、もしこの機関に加盟せず、裁判所でその報道に問題があると認定された場合には懲罰的罰金が科される可能性がある。一方、その制度では報道の自由が脅かされると反対し、業界の9割以上が設けた自主規制機関の独立プレス倫理機構（The Independent Press Standards Organisation (Ipso)）側は、業界の勅許案の再考を求めて提訴していたが控訴院で却下された。

近所の庭の花



ジャビッド文化相は、Ipso を容認する方針だ。これは現実的な対応だと思われる。業界の支持を受けずに政府の進めるプレス規制を進めることは難しい上、メディアの攻撃を受けた前任者の二の舞を避けられるだろう。2015年の総選挙を控え、前回保守党が支援を受けた主要新聞紙らと対立することは得策ではない。ただし、参加者はないが勅許による制度が影に存在する。これが中長期的にどのような効果を生むか注目される。

### 雑記

伝記作家ジョン・キャンベルの話聞いた。キャンベルはこれまでロイド・ジョージをはじめ何人もの大物政治家の伝記を書いているが、この話では3人の政治家に的を絞った。ヒース元首相（保守党）、サッチャー元首相（保守党）そして欧州委員会委員長を務め1981年左傾化した労働党から別れて社会民主党を設立し、その後亡くなるまでオックスフォード大学の総長を務めたロイ・ジェンキンス（労働党→社会民主党→自民党）である。

いずれの人物も富裕ではない家庭で生まれた。ヒースの父は大工、サッチャーの父は雑貨商で地方政治家、そしてジェンキンスの父は炭鉱夫から労働党の下院議員となった人物である。ヒースもジェンキンスも戦争に行った。そして3人ともオックスフォード大学を出て政界で名をなした。

ある人がなぜこれらの人物を伝記の対象に選んだのかと尋ねた。キャンベルは、いずれも非常に興味深い人生を送った人たちだからだという。そして付け加えて、ブレア（元首相）やキャメロン（首相）には興味がない、人生での経験が乏しく面白くないからだと言った。

現在の3主要政党の党首はいずれも順調に政党で育ってきた人物で、政党官僚的と言えるだろう。現在の政治が面白くないのには理由がある。

なお、ジェンキンスが、既に政治家として名を上げていたにもかかわらず、なぜ労働党を離れて社会民主党を設立したのかという私の質問に対し、それがよかったかどうかは意見が分かれるだろうが、ジェンキンスは左傾化した労働党で選挙を戦うのに耐えられなかったのだろうとの答えだった。いずれにしても自分たちの信念を貫き、ジェンキンスもヒースもサッチャーも骨太の人生を歩んだといえる。

## 5. 議員の倫理違反

保守党の下院議員だったパトリック・マーサーが下院の倫理委員会から6か月間の登院停止処分を受け、議員を辞職した。昨年、BBCのパノラマという番組のおとり取材に引っ掛かり、フィジーの英連邦復帰のためのロビーイングをすることに対してお金を受け取り、同僚らに関する不適切なコメントをしたうえ、人種差別的な言葉も使っていた。

議会では、お金をもらい、その利益を代弁するような行動をしてはならないことになっており、同僚や大臣、公務員に働きかけることも禁じられている。ところがマーサーは依頼を受け、議会でフィジーに関する質問をしたうえ、フィジー復帰のための超党派グループを設立することも約束していた。一方、フィジーとの関係を公表することなく、また、自分と依頼を受けた偽ロビーイング会社との関係を議会に登録することも避けていた。

下院の倫理委員会は、議会の倫理コミッショナーの報告書を受け、マーサーの行動はお金に影響を受けたものと認定し、下院と議員の評判にかなりの傷をつけたとして1947年以来2番目に長い登院停止処分を科した。

なお、この補欠選挙は6月5日(木)に行われることとなった。この選挙区は保守党が圧倒的に強いが、キャメロン首相にとっては頭の痛い問題だ。欧州議会議員選で痛手を受けた後、内閣を改造し、心機一転6月4日(水)の女王の施政方針スピーチで攻勢に出ようとする計画が狂わされたからだ。もし万一保守党候補がUKIP候補に敗れるようなことがあればその政治的な影響は極めて深刻なものがあるだろう。



まだ寒い日もある  
ウィンブルドンパーク

## 6. イングランド国教会と国

キャメロン首相が「英国はキリスト教国」と言ったことで、それに賛成する人たちと反対する人たちの間で議論が戦わされた。2011年の国勢調査によると英国では自分がキリスト教徒だという人は59%いる。その前の2001年の72%から大きく減った。しかもキリスト教徒の中で熱心に教会に通う人たちはそう多くはない。一方、イスラム教ら他の宗教を信ずる人たちの数は増加しており、これらをどのように評価するかがこの論争の大きな争点であった。

その中で、イングランド国教会の前のカンタベリー大主教であったローワン・ウィリアムズの、英国は「ポスト・キリスト教国」との発言が、現在の状況を描写するのにふさわしいように思われた。英国は「キリスト教信者の国」というよりは「キリスト教的な文化の影響が強く残っている国」だということである。

イングランド国教会は、国の制度の中に組み込まれている。例えば、君主は、イングランド国教会のトップであり、首相が大司教や司教の任命について君主に助言し、君主がこれらを任命することになっている。上院(貴族院)にはイングランド国教会の司教らが26人上院議員として任命されている。また、国教会で決めたことは、通常の議会の議決を経ずに国の法律となる仕組みもある。

実際のところ、これらの仕組みはかなり形骸化されている。また、国の制度として皇室が必ずしも特別扱いされているわけではない。例えば、チャールズ皇太子がカミラ妃と結婚した時、当初、エリザベス女王の居城ウィンザー城の礼拝堂で結婚式を行おうとした。しかし、そこで結婚式をするためにはその免許を取る必要があり、しかもその免許のために一般人にもその礼拝堂での結婚式を認める必要があるということがわかったため、結局、チャールズ皇太子はウィンザー城近くの結婚等登記所で結婚し、書類に署名した後、その礼拝上でカンタベリー大司教らの祝福を受けるだけとしたことがある。

一般の英国人は、現在の国とイングランド国教会の関係におおむね満足している。無神論者のクレグ副首相(自民党)は国とイングランド国教会を分離すべきだと主張したが、これは少数意見に留まる。

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk